

日本でプロゲーマーが誕生!!

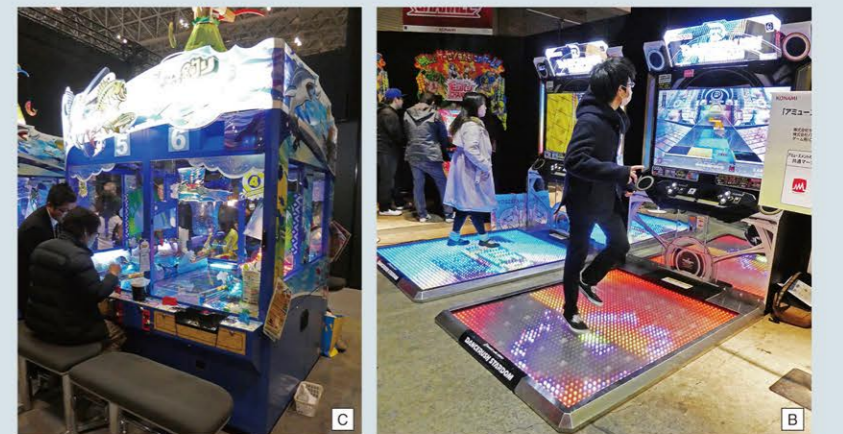
アーケードと家庭用のゲームイベントが共催

2月9日～11日、千葉県・幕張メッセで最新アーケードゲームの展示会『JAEPO 2018』が開催された。10日～11日は、ゲームファンとゲーム大会の祭典『闘会議 2018』が合同開催。『闘会議2018』では昨年から注目が高まっているeスポーツの日本初の公認プロが誕生する大会も行われ、例年以上の盛り上がりを見せた。

取材・文=川村和弘(フリーライター)



A/eスポーツには欠かせない格闘ゲームの「ストリートファイターV」。『闘会議』ではメインブースにおいて、大勢の観客が見守るなか、プロ選手による白熱のバトルが行われた B/コナミの新作ダンスゲーム「DANCERUSH STARDOM」。画面の奥から手前へと流れてくるマークに合わせて足でステップを踏んでいき華麗にランニングマンのステップなどを踊る C/今秋稼働予定のセガのメダルゲーム「レック釣りGO!」。フィールド上のウキボールを落として魚を釣っていく。天井の網からジャックポットコインが流れ落ちる様子は大迫力だ



ゲームセンターや遊園施設で遊べるゲームマシンや遊具の最新機種が一堂に会する展示会『ジャパン アミューズメント エキスポ 2018 (JAEPO 2018)』には、ゲーセンだからこそ楽しめる大型筐体の最新作が揃っている。

た。いまでも人気のある音楽ゲーム(通称:音ゲー)で、コナミが『DANCERUSH STARDOM』、セガが『オンゲキ』を出展。さらに会場では「天下第一音ゲー祭り」という音楽ゲームの腕前を競う全国大会が開かれた。

ゲーセンではお馴染みの大人気で競いあうレースゲームや、VRを使っている体感できるタイプの最新作が見られた。また、『インベーター』や『ボンバーマン』、『PONG』など、大昔のゲームを題材にアレンジした新作ゲームもある。

つた。メダルゲームでは、大型モニターを使った筐体に魚釣りをテーマにしたものが多かった。そして会場でも多くのスペースを占めていたのが、クレイジーゲームなどでゲットできるプライズ(景品)だ。マンガやアニメに登場する人気キャラのフィギュアから雑貨商品など、今後登場する新作が数多く展示されていた。会場の一角では、アーケードゲーム用ICカードの仕様統一についても公表された。これまでゲーセンで継続して

遊ぶためのユーザー認証カードは各社独自に展開されていたが、今年夏頃までは大手3社の対応機種で相互利用が可能になるようだ。

注目集めたeスポーツ大会

一方『闘会議』は、2015年から開催され、今年で4回目を数えるユーザー参加型のイベントだ。毎年、さまざまな対戦ゲームの大会が各ブースなどで行われ、熱いバトルが繰り広げられている。

大人気の『スプラトゥーン2』では、日本一を競う大会が行われたほか、ゲ

ームに登場する人気キャラによる音楽ライブも開催。さらに動画配信サービスのゲーム実況で活躍している実況者が登壇するブースもあり、イベントを盛り上げていた。ほかにもコスプレを楽しめるブースがあったり、レトロゲームやアナログゲームなどを遊べるブースがあったりと、ゲーム好きにはたまらないイベントだった。

その中でも今年は、コンピュータゲームを競技として腕を競い合うeスポーツ関連の大会が開催され注目を集めた。プロの認定を行った機関は、2月に設立されたばかりの新団体「日本eスポーツ連合(JeSU)」。今回は、格闘ゲームでお馴染みの『鉄拳7』、スマホ用ゲームの『パズドラレダー』や『モンスターストライク』(以下、モンスト)の大会での上位入賞者にプロライセンスの権利が贈呈され、日本初の公認プロが誕生した。またプロ同士による大会も開催され、『鉄拳7』と『ストリートファイターV』アーケードエディションの各優勝者には200万円、『モンスト』の優勝チームには800万

円の高額賞金が贈られた。これまで日本では、景品表示法や風営適正化法、賭博罪などの法律によって、eスポーツ大会において高額賞金を出すことも受け取ることも難しい状況だった。JeSUの説明に

続きは月刊アミューズメントジャパン4月号をご覧ください



D/クレーンゲームなどのプライズ景品を出しているメーカーが一堂に揃って、今後登場予定の新作を展示。プライズ関連は施設によっては売上の6割以上を占めるほどの規模なのだ E/スマホ用ゲーム「モンスターストライク」では、4人ひと組のチームで、どちらが早くステージをクリアするかを競いあった。プロライセンスをかけた闘いに決着がつき大歓声



F/会場には、レトロゲームを楽しむブースなどもあった。まるでマンガに登場するような、巨大なコントローラーでスーパーファミコン版の「マリオカート」をプレイできた G/eスポーツ新団体「JeSU」によるトークイベントも開催。同理事の浜村弘一氏が登壇し、プロライセンスの発行について「現在30~40社と話している」ことが明らかになった



かわむら・かずひろ
フリーランス編集者&ライター。元ゲーム雑誌編集者で、当時は「ドラクエ」シリーズを担当。新しモノ好きで、VRや玩具、最新ガジェットについても詳しい。現在は、モバイルプロジェクトの販売を手がけつつiPhoneやゲーム関連の情報メディアなどで編集・ライターとして活躍中。